

生き生き

NO.102 令和4年11月号 岡崎市現職研修・生活科・広報部発行

自分ごととしてかかわるための探検活動の工夫

生活科部長 生平小学校長 尾崎 智佳

「校長先生、どんぐりがこんなにとれたよ」と、1年生の子供たちが大きな箱（宝箱）を抱えて、校内で見つけたどんぐりを自慢気に見せてくれました。数日経過して1年生の教室を覗くと、その宝箱には、秋のきれいな葉っぱや様々な木の実が入っていました。それぞれの子に、どうしてそれを入れたのか尋ねてみると、「(宝箱を)きれいなものでいっぱいになりたいから」「自分だけが見つけた木の実だから」と、どの子も宝箱を自分が見つけた秋のものでいっぱいになりたいという思いをたくさん語ってくれました。

生活科では「〇〇探検」として教室を飛び出し、自然や社会、人々に直接的な体験活動をして学習を進めていくことがよくあります。「〇〇探検」には言葉の魅力もあり、子供たちもわくわくした思いを抱いて活動します。しかし、ただ単に「〇〇探検しよう」では、子供たちが対象（自然や社会、人々）に繰り返し関わっていこうとする思いや願いが湧いてこず、活動に浸りこんでいくことにつながらないことが多くあります。そこには、探検活動を自分ごととしてとらえ、子供の思いや願いをふくらませるための工夫が必要です。

上記の「あきとなかよし」の単元で、本校のM教諭は宝箱を作らせ、その宝箱に学校で見つけた秋のものを入れようと、秋見つけの学校探検を仕組みました。この単元の主たる体験活動は、秋見つけの学校探検です。M教諭はその学校探検の必然性を、宝箱を使った自分だけの宝物探しとして工夫しました。この工夫により、子供たちは秋の自然の素敵なもの探しとして対象（秋の自然）を自分との関わりでとらえ、自分だけの素敵な秋の宝物を見つけていきたいという思いをふくらませていくことにつながったのです。



ある女の子の宝箱には、黄色い花梨の実が入っていました。「きれいな黄色で大きな実だし、いいにおいがするからいいでしょ。」と、見た目の色や形だけでなく、なおいにまで意識を向け、諸感覚をフルに使って秋の自然に関わっている姿を感じました。互いの宝箱の発表会を通じて、さらに子供たちは自分だけの素敵な秋の宝物への思いや願いをふくらませ、思考を活性化させて探検活動に浸りこんでいくと思われま。

研修の報告

7月27日（水）総合学習センター多目的ホールにて、授業力アップセミナー基礎編が行われました。前半は、羽根小学校の三浦理沙先生に「プログラミング学習と教科の学びを両立する生活科の追究」の主題のもと実践された、授業実践の報告をしていただきました。後半は、愛知教育大学教授 加納誠司先生から、「子ども一人一人が輝く生活科授業の創造」のテーマでご講話をいただきました。参加された先生から、「1年生でここまでプログラミングができることに驚きました」「2学期からは子供たちの鯛をもっと躍らせて、粘り強く学ぶ子供を育てたい」などの感想をいただきました。



県教研報告

10月15日(土)に開催された、愛知県教育研究集会に、生活科部から2名の先生が、正会員として参加されました。当日の様子をご報告いたします。

リポート発表では、コロナ禍に配慮したリモート町探検や、アバターを用いて子供たちと関わり、単元にストーリー性をもたせるなど、新たな手だてを知りました。「自分自身の成長に気付けるようにするには、どうすればよいのか」について討論する場では、他者との関わりの中で友達に認めてもらうことや、アサガオや野菜などになりきって、対象の立場から自分を見つめることが有効なのではないかなどの意見が出されました。また、子供たちの出会う事実の一つ一つが知識や知恵を生み出す種子だとしたら、さまざまな情緒や豊かな感受性は、この種子を育む土壌であると教えていただきました。今後も、子供たちの土壌を耕せるような生活科の授業づくりに励みます。(常磐小学校 原田早希)

総括討論では、生活科で「どのような力を身につけさせたいか」について話し合いが行われました。

助言者の先生からは、子供たちに解決できそうな壁(失敗や困り感)を意図的に単元に組み込むこと、低学年の子は自己中心的でよく、その子もつ思いや願いを実現させていくことが大切だとの助言をいただきました。そして、自己を客観視し、自分自身の成長やよさに気づき、自己有用感を高められるように、2年生の最終単元である「自分はっけん」をどのように進め、どのように3年生につなげていくかが重要と教えていただきました。

生活科は、「体験することは楽しい」「学ぶって楽しい」と学校へ行く原動力となる大切な教科なのだと思えて実感しました。(常磐南小学校 小柳直希)

～きれいと輝く

素敵な一瞬～

秋のおもちゃ祭りに向けて、棚田公園へ材料集めに行きました。「きれいな色のはっぱがあったよ」「どんぐりは、ころころ転がすと楽しいよ」など、校内の秋探しでの気づきを基に、素敵な秋をたくさん見つけることができました。



(三島小学校 市川帆風先生)

サツマイモ掘りでは、一人1個サツマイモを掘りました。掘ってみると、サツマイモが思ったよりも深くにあって、大きさや形が友達と違ったりして、驚く姿が見られました。また、自分で作った作物を食べて、よりおいしく感じたようです。これから育てるチューリップや2年生で育てる野菜も、今回のように大切に育てたいという思いをもつことができました。



(藤川小学校 都築あすか先生)

集合学習で一緒に勉強する夏山小・下山小の子供たちのために、好きな鳥の紹介を行いました。「色がきれいだから、すきです」「こんな鳴き方をします」など、好きな理由や鳥の特徴を大きな声で発表することができました。発表の後は、全員で鳥カルタを行い、みんなで楽しみながら、鳥に親しみました。



自分の好きな鳥が友達に伝わり、うれしそうな子供たちの姿が見られました。

(宮崎小学校 水谷美沙先生)

今年の町探検は、3年ぶりに店や施設の中に入れていただくことができました。

実際に仕事をしている様子を見たり、話を聞いたりすると、子供たちのわくわくは広がってもっと知りたいという気持ちがどんどん生まれました。



(六ツ美北部小学校 西川麻里先生)

「わたしの町はっけん」の学習では、町探検へ行きました。学区内のスーパーマーケットやお寿司屋さんなどに行き、質問をしたり、店内を見せてもらったりしました。スーパーマーケットのバックヤードを見せてもらい、楽しく見学できました。



(細川小学校 杉原好美先生)

<第2回 岡総研・生活科授業道場 報告>

第1部では、KMS(知識流動システム研究所)の小泉周先生から、STEAMライブラリーのコンテンツ紹介をしていただきました。第2部の座談会は、総合と生活科に分かれて行われました。生活科では、町探検の単元の進め方について熱心に協議がなされ、子供が、地域の人を自分との関わりでどのように捉えているのかを探ることが、子供の思いや願いをかなえる単元の構築につながるのではないかと意見が出されました。